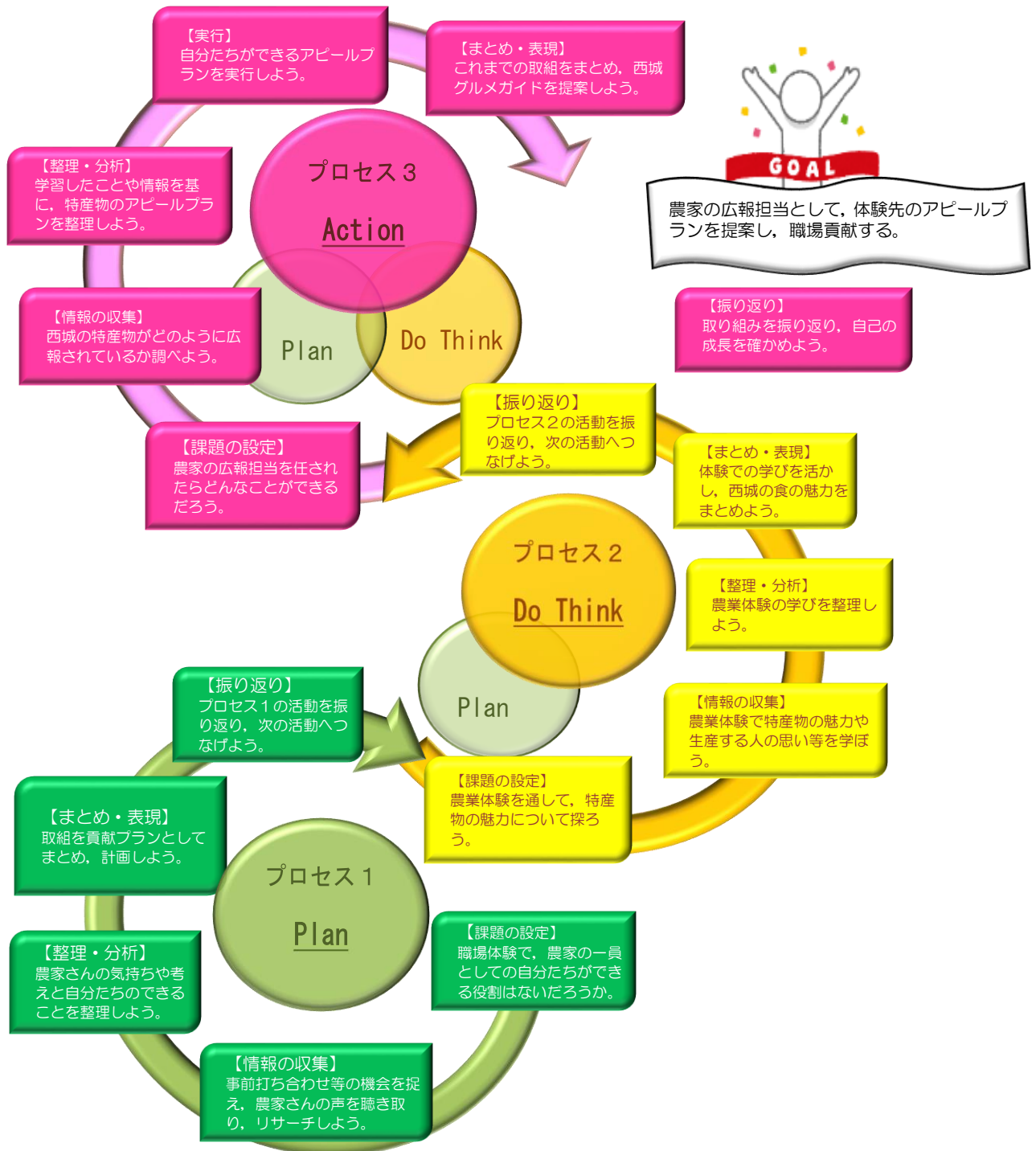


単元名

みんなで探ろう！職場貢献プロジェクト ～西城を支える自分・人・仕事～

1 単元について

(1) 構想図・西城中学びのストーリー



本校では、総合的な学習の時間の探究課題の柱の一つとして、「郷土を考える」というテーマを設定している。全学年で「西城を活性化する」という共通認識をもち、各学年の発達段階に応じた取組を進めている。1学年では、キーワードを「見つめる」として単元開発を行い、2学年のキーワード「探る」、3学年のキーワード「創る」につなげていく。各学年とも、郷土に対する誇りや愛着をもたせることをねらいとした単元づくりを行っている。

第2学年は毎年1学期に職場体験学習を実施している。今年度は西城の特産物の魅力に焦点を当てるために、職場体験先を農家の方に限定し農業体験活動とした。単元（ストーリー）名は「みんなで探ろう！職場貢献プロジェクト～西城を支える自分・人・仕事～」と題し、職場体験学習を地域貢献につなげた新たな単元づくりに取り組むことにした。次の3つの小単元（プロセス）で単元（ストーリー）を構成し、ゴールとしては、職場体験学習を活かし、職場体験先のPRだけでなく、地域の活性化に向けた取組を計画し、実行につなげることにした。

小単元（プロセス1）では、職場体験先の方に自分たちができる貢献を考え計画する。ポイントは、職場体験学習に職場貢献活動をプラスするところである。具体的な取組としては、職場体験学習の前に、体験先の農家の方とコミュニケーションを図りながら、ニーズをリサーチし、自分たちができる体験先への貢献プランを考え、作成し、実行する。

小単元（プロセス2）では、小単元（プロセス1）の貢献プランや実際の職場体験学習を行い、体験を通して農家の方の思いや特産物の魅力をより深く知る。ポイントは、これまで調べたり、聞いたりした西城の特産物の魅力を、職場体験学習の活動を通して、よりリアルに感じ、その思いを次の行動につなげることである。具体的な取組としては、職場体験学習で学んだことや自分たちが考えた貢献プランの成果物についての評価をまとめ、西城の特産物の魅力発信（広報）につなげる。

小単元（プロセス3）は、小単元（プロセス2）のまとめをもとに西城の特産物を自分たちで発信（広報）できる方法を考え、周りの協力を得ながらそれを実行につなげる。ポイントは、職場体験学習のまとめをもとに、職場貢献と西城地域の活性化に向け、行動化することである。具体的な取組としては、職場体験先の農家の方の特産物を活用した西城PR活動を計画し、実施する。例としては、芸備線に乗車された観光客や地域の方に、駅等の場所を使って西城の特産物即売会を計画し、農家の方や地域の方の協力を得ながらともに実行する。

職場体験学習を単元（ストーリー）の中心に位置づけ、3つの小単元（プロセス）を上向きに積み重ね「西城を活性化する」というゴールに向け、学びを深めさせたい。

（2）生徒観

1学期末に行った、本校の育成したい資質・能力に関するアンケートでは次のような結果であった。

資質・能力	質問内容	肯定的回答
主体性	授業で分からないところは質問したり家庭学習で調べたりしようとしています。(主体性)	65%
	自分のできることを考え、授業や取組で活かそうとしています。(自己理解)	65%
協調性	ペアやグループでの話し合いでは、仲間の意見や考えを聞いたり、自分の考えを話したりしようとしています。(相互の理解)	59%
	班やクラスで決めた目標に向けて、自分の役割を理解し、自分の役割を果たそうとしています。(役割・貢献)	47%
課題解決力	学習や行事等での取組の成果や課題を整理し、次の取組に活かそうとしています。(まとめ)	56%
	自分の考えや思いを「意見や発表(プレゼン)」「レポートや感想文等」で工夫して表現することができます。(表現)	53%

第2学年は、様々な活動に興味関心をもち、活発に活動できる学年である。自分の得意なことや興味関心をもったことに関しては意欲的に活動することができ、自分なりのこだわりをもって納得いくまで追求することができる。

アンケートの結果から、どの項目においても肯定的評価が高くはない結果になった。アンケート結果や1学期の生徒の様子を踏まえ、現状の課題として次の2点を考えている。

1点目は、生徒の自信につながるような達成感を十分にもたせることができていない。生徒は1つ1つの取組を頑張ることはできており、成果も出ているが、それを十分には実感できておらず、成果を次への意欲や取組に上手くつなげることができていない。個々の役割と目標を明確にするとともに、活動のまとめりごとの到達度の評価と、小単元（プロセス）ごとの総括的な評価を丁寧に行い、個々の頑張りや成果を生徒に実感させる必要がある。

2点目は、自己を表現する力が十分に高められていないことである。ペアやグループでの話し合いでは、自分の伝えたいことを伝えることはできても、相互に伝え合う活動までには高められていない。仲間と議論しながら学びを深める必要性や充実感を体感させる必要がある。

（3）指導観

本単元（ストーリー）を指導するにあたり、生徒に「職場・地域貢献⇒地域活性化」という目標をしっかりと持たせ、生徒の柔軟な発想や主体的な学習活動を引き出せるような場面を設定し、学びを自信につなげていけるようにしたい。そのために、2つの手立てを考えている。

1つ目は、取組や頑張りへの達成感を味わわせるために、各場面を捉えて、評価をすることである。具体的には、「活動のまとめりごとの到達度評価」と、「小単元（プロセス）ごとの総括的な評価」を行い、少しずつの成果の積み重ねや小単元末での変容を生徒に実感させる。

「活動のまとめりごとの到達度評価」では、探究の過程ごとに頑張りや成果を評価する。例えば、小単元（プロセス3）の課題設定の場面では、個々が考えた案の良いところをシェアし、よりよい案をみんなで生み出させ、個及び全体を評価する。また、自分たちで考え、実行に向けて準備で頑張ったことをプラン実行の前に評価し、プラン実行の意欲につなげていく。随所で評価したことをもとに、毎時間の振り返りの中で頑張ったことを記録させ、成果を実感につなげる。

「小単元（プロセス）ごとの総括的な評価」では、各小単元（プロセス）やストーリーの終末にできたことや成長したこと等の変容を評価する。例えば、小単元（プロセス3）の終末では、頑張ったことや、その過程で努力したこと、成長を感じた場面について個及び全体に評価をする。また、生徒同士でもお互いどのようなことを頑張っていたか、活動実行の過程でどのように貢献しようとしていたか評価し合う場面を設け、頑張りや成果の実感につなげる。振り返りでは、毎時間の振り返りをもとに取組の足跡を振り返り、成果を整理し、小単元（プロセス）のまとめとしての振り返りも行う。それを受け、次年度に向けての取組や学校生活の中で活かせることを指導者は助言していく。

2つ目は、表現する力をつけるために、協議する機会を多く設定することと、場面や状況に応じた話し合いの方法を工夫する。具体的には、お互いの考えを伝え合うだけでなく、出し合った意見について更に質問をし合ったり、お互いの考えに対してアドバイスを言い合ったりする場面を設定し、生徒同士で考え学びを深めていけるようにする。例えば、小単元（プロセス3）の課題の設定の場面では、特産物のPRに向けてどうすればたくさんの人に魅力を伝え広めることができるかを、まず個々で考えるために、夏休み課題として探究レポートに取り組みさせる。次に、それをもとに一人一人が自分の考えを発表する場面を設定する。仲間の発表を聞くこと、そこから疑問に思ったことを質問し合いしっかり議論をすることを通して効果的なPR方法を生み出し、アピールプランを立てていく。更には、アピールプラン実行に向けて、特産品の魅力を伝えるための宣伝方法について、模擬販売会を通して特産品のプレゼンを行い、客観的な視点から意見を出し合う。多様な視点から物事を考え、仲間と試行錯誤しながら様々なアプローチの仕方を身に付けていけるようにしていく。

2 ストーリー的目標

【主体性】

職場貢献活動として自分たちができることを考え、その目的や目標に向け、主体的に取り組む力を育む。

【協調性】

自他の考えを共有したり、仲間や地域及び関係機関との関係づくりを進めたりしながら、課題解決に向けて協働する力を養う。

【課題解決力】

課題を自分や社会とかかわることとして捉えるとともに、課題解決に向けて情報を収集したり、整理分析したり、他者に伝えたり、PRしたりと目的や目標の達成に向けて多面的に行動する力を育む。

3 総括的な評価

(1) ストーリーのゴールイメージ

職場体験先での体験や貢献活動を活かした体験先の農家のアピールプランを提案し、体験先への感謝と共に地域の活性化を図る。

(2) ストーリーのルーブリック


評定	観 点
A	自分たちが体験や貢献活動を通して学んだことを踏まえ、西城の特産物の魅力を多角的・多面的に分析し、それを多くの人に広めようという目的と郷土の誇りをもってアピールプランを提案することができる。
B	自分たちが体験や貢献活動を通して学んだことを踏まえ、西城の特産物の魅力を分析し、それを多くの人に広めるようなアピールプランを提案することができる。
C	職場体験先のアピールプランの提案をすることができる。

4 プロセスの評価規準と本校で育成したい資質・能力とのかかわり（プロセス3）

評価の観点	本校で育成したい資質・能力	評価規準
主体的に学習に取り組む態度	主体性	① アピールプランの提案に向けて、解決策を見出しながら自ら取り組もうとしている。【主体性】 ② 自分の特徴や良さを理解し、プラン実行の中で活かそうとしている。【自己理解】 ③ アピールプランの提案やプラン実行を通して、地域社会の問題に向き合い、取組を進めようとしている。【社会参画】 ④ 計画を立て、先を見通して活動することで、自己の将来を考えようとしている。【将来設計】
	協調性	⑤ 他者の考えを共有し、よりよい方向を導き出そうとしている。【他者理解】 ⑥ 仲間や地域及び関係機関と関係づくりを進めながら、プラン実行に向けて協働しようとしている。【協働性】

思考・判断・表現	課題解決力	⑦ 自分たちにできる自然の活用方法について考え、提案やプラン実行に向けて計画を立てている。【課題の設定】
知識・技能		⑧ アピールプランの提案に向けて、特産物の栽培や活用法について情報収集している。【情報の収集】 ⑨ 視点を定めて、必要な情報を分析している。【整理・分析】 ⑩ 学んだことを踏まえて、特産物の魅力をグルメガイドとしてまとめている。【まとめ】 ⑪ 特産物の魅力を伝えるために、分かりやすく説得力あるPRやプレゼンをしている。【表現】 ⑫ 学習の進め方や仕方を振り返り、次の学習に向けての見通しを考えている。【振り返り】 ⑬ 地域にはまちづくりや地域活性化の取組があること、それに関わる人々の願いや思いを理解している。【知識】 ⑭ 目的や相手に応じた適切な言動や行動が様々な場面や状況で活用できている。【技能】 ⑮ 農業体験を通して、特産物の魅力を知り、農家や特産物のアピールプランを作成・実行できたことは、探究的に学習したことの成果であると気付いている。【探究的な学習のよさの理解】

5 指導と評価の計画（全35時間のうちのプロセス3 13/35時間）

時	学習内容 ◎他教科等とのつながり	実践記録	評価			
			知	思	主	評価規準 (評価方法)
1	<p>プロセス1：職場体験の中で職場貢献としてできることを考え、準備する。</p> <p>プロセス2：職場体験で学んだことをもとに、成果物を完成させ、農家に届ける。</p> <p>課題の設定</p> <p>農家の広報担当として、自分たちにできることはどんなことだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 個人探究として、これまでの取組を振り返り、西城の特産物を広めるためのPR方法を考える。(夏季休業中に探究レポートとして個々で提案できることを考えた。) <p>〈実際に出了案〉</p> <ul style="list-style-type: none"> お世話になった農家さんの野菜をネット販売したら西城以外の人にも食べてもらえるのでは。 野菜を使った料理を作って、祭りなどで販売して食べてもらおう。 農産物の魅力が伝わるパンフレットを作ろう。 <p>など</p>	<p>〈探究レポートの取組〉</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの学習と関連させた課題を設定し、これまでの学習過程も踏まえて探究できるようにし、取組や小単元(プロセス)のつながりを意識させた。 <p>〈レポート作成の流れ〉</p> <ol style="list-style-type: none"> これまでの取組内容も踏まえながら、やりたいと思っていることやそこから得られる効果について仮説を立てる。 探究の過程を自分自身の力で構成し、実行に向けての計画を立てる。 調べたことや実行したことをもとに自分の考えや思いをまとめる。 個人探究での自分の思いや考えを今後の学習活動につなげる。 <ul style="list-style-type: none"> 商工会から土曜昼市の出店依頼があり、お世話になった農家さんの農産物の販売を通して、PRしていこうと活動をつなげた。 	○		○	主-① (行動観察) 課-⑬ (ワークシート)
2 3	<p>情報の収集</p> <p>西城の特産物がどのように広報されているか調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験先での採れた特産物がどこでどのように販売されているか、またどのように広報されているか情報を集める。(個人探究) 特産物を自分たちで力でのどのように広めることができるか案を出し合う。  <p>仲間の考えを参考にする。 もっと知りたいことを質問し合う。</p>			○	課-⑦ (ワークシート) 課-⑧ (行動観察)	

4 5	<p>整理・分析</p> <p>特産物のアピールプランを整理しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちが考えたアピールプランについて具体案として整理する。 職場体験では看板をつくったので、いちごの魅力が伝わるポスターをつくろう。 季節が変わり、新たな野菜も出荷できるので、その野菜の特徴や生産のこだわりを新たにポップにまとめてみよう。 たくさんネギを消費できるレシピを考えてみよう。 農家にアピールプランの概要を伝え協力要請する。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれが考案した探究レポートを交流し、探究レポートで考えた内容をもとに、土曜昼市での販売方法、アピール方法を考えた。  <p>探究レポートを見返しながら、さらなる工夫を考える。</p>	○	○	主-④ (行動観察) 協-⑥ (行動観察) 課-⑨ (ワークシート)
6 ⑦ 8	<p>実行 まとめ・表現</p> <p>プラン実行に向けて準備をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 特産物をどのようにPRするか(宣伝方法)考え、準備をする。 実行委員を中心にパンフレットを作成したい。表紙とあとがきを実行委員でつくり、農家の紹介の部分をみんなに協力してもらおう。 販売する野菜の情報が知りたいので、農家さんに問い合わせよう。 販売会の宣伝のためのポスターをつくって、町内に掲示しよう。 <p>職場体験で作成した資料も活用する。</p>  <p>実際に作ったポスターやポップ</p>   <ul style="list-style-type: none"> 模擬販売会を行い、アピールできるか検証する。 <p>販売の実演をし、商品の魅力をプレゼンする。</p>  <p>プレゼンをきいて、販売目的視点で評価する。</p>  <p>仲間からの評価をもとに、ステップアップを図る。</p>  <ul style="list-style-type: none"> 説明の中で、地元の人にしか分からない言葉もあったので、他地域から来た人にも分かるような内容にしよう。 おすすめの料理を紹介する時に、「もし~だったら」とシチュエーションも踏まえて説明しよう。 ポップの文字が小さくて見えにくい。言葉を精選して、一目見て分かりやすいものにしよう。 農家さんとの事前打ち合わせを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 宣伝物の作成等、自分たちでこれがいいと思うことを考え、実行した。 土曜昼市の目的を再度確認するために、販売をする上で大切にしたいことを話し合った。 ジャムボードで意見を出し合い、分類し整理した。 <p>⇒商品の価値・販売戦略</p>  <ul style="list-style-type: none"> 価値と販売戦略の2つの観点で商品PRのためのプレゼン内容を考え、模擬販売会で実演した。仲間からの評価に加え、授業参観者や校長先生から気付きを教えていただき、販売方法のステップアップを図った。 	○	○	主-② (行動観察) 協-⑤ (行動観察) 課-⑪ (行動観察、発表内容) 課-⑭ (発表内容)

	<p>プランを実行しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 農家さんと一緒に特産物のPR活動を行う。 	<p>〈土曜昼市に出店〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 農家さんと一緒に野菜の販売を行った。 模擬販売で培ったプレゼン力を発揮し、お客様に商品の魅力について説明をした。 <p>ワンステップアップを図り、プレゼン内容や掲示物を工夫。</p>				
<p>9 10 11 12</p>	<p>まとめ・表現</p> <p>これまでの取組をグルメガイドとしてまとめ、提案しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 実行したことをもとに、成果と課題を整理する。 <p>〈土曜昼市の振り返り〉</p> <ul style="list-style-type: none"> お米を販売したがたくさんの方が家で作っているからと言って買ってもらえなかった。しかし頑張って声を出していると「頑張っているから買う」と言ってくれる人が増え、苦労したけどその分頑張ることもできた。 イベントを成功させることができ、農家さんの思いを伝えることができたと思う。 最初は恥ずかしくてお客さんの呼び込みができなかった。終わりに近づくにつれあまり売れていない商品を見たら、農家さんのために全部売りたいという思いが強くなり自然と大きな声で売ることができた。 <ul style="list-style-type: none"> プラン実行を通して学んだことや地域のために自分たちができることを改めて考え直し、学習の意義を見いだす。 特産物の魅力と生産者の思いについて、学んだことを踏まえてグルメガイドにしてまとめ、プレゼンする。  <p>お世話になった農家の特産物を紹介するパンフレットを作成。</p> <p>職場体験から土曜昼市までの取組を通して考えたこと等を1人1人が発表。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りシートを用いて、土曜昼市の取組を通しての主体性と自己やクラスの成長について振り返りを行った。 総合的な学習の時間発表会の場で、自分たちの取組を報告した。 職場貢献で身に付いた力や今後につなげていきたいこと等を自己表現した。 				<p>課一⑩ (成果物) 課一⑪ (行動観察、プレゼン内容)</p>
<p>13</p>	<p>振り返り</p> <p>取組を振り返り、自己の成長を確かめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの取組を振り返り、成長したことや、今後につなげていきたいことを整理する。 地域との関わり方について考える。 <p>〈プロセス3の振り返り〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 野菜販売という大きな目標をもち、農家さんの思いを伝えることができた。みんなでサポートし合い練習や販売ができ、クラス全体的に積極性が増えたと思う。 今自分たちが取り組んでいることが農家さんの役に立っていると実感できた。お世話になった農家さんのために野菜を完売させ恩返しをしたいという思いで販売をした。 準備から実行を通して一人一人が積極的に動かないと成功しなかったと思う。最後までできることを探して全員で取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> プロセスの振り返りシートを用いて、これまでの過程や取組を振り返り、今後の展望を見据えた。 				<p>主一③ (振り返りシート) 課一⑫, ⑬ (振り返りシート)</p>

6 本時の学習

(1) 本時の目標

模擬販売会を通して、魅力的な販売ができるように自分たちの班の取組を改善することができる。

(2) 本時のルーブリック

評定	観 点
A	模擬販売会で得た他者からの意見や他の班の実演をもとに、販売に向けて改善したり、自分たちで新たな工夫をしたりすることができる。
B	模擬販売会を通して、販売に向け自分たちの取組を改善することができる。
C	模擬販売会を通して、販売に向け自分たちの取組を見直そうとしている。

(4) 学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」と判断した生徒への指導の手立て) (◎深い学びを実現するための指導の手立て)	評価規準 (○) 資質・能力 (★) (評価方法)
1 本時のめあてを確認する。		
魅力的な販売ができるように自分たちの班の取組を「one step up」		
2 模擬販売会の目的を確認する。	◎商品の価値（希少性や独自性）が分かりやすく伝わるか、商品の販売戦略（お買い得感、買いたいと思わせる表現）を考えられているかという二つの視点を確認させる。	
3 模擬販売会を2グループで行い、模擬販売を評価する視点を踏まえ、各班で評価し合う。	◇1グループ4班でローテーションさせ、各班の発表を聞かせ、評価させる。 〈実演する班〉 ◇販売のアイテムを皆に見せながら実演させる。お客さんが来ない時や呼び込みのシミュレーション、質問された時の問答を実演させる。 〈評価する班〉 ◇模擬販売を評価する際の視点をもとに評価させる。 ◇自分たちの班と比較しながら他の班の良さをつかませる。また、十分でないところをアドバイスさせる。(方法) ◇模擬販売を評価する際の視点を踏まえ、模擬販売を見て気付いたことを付箋に書かせる。(ジャムボード)	○特産物の魅力を伝えるために、分かりやすく説得力のあるプレゼンをすることができる。 (ワークシート, 行動観察) ★課題解決力

